

## ○総合教育企画部門

総合教育企画部門は、学務企画課（教学システム・IR室）と一体的な活動を行っているが、令和2年度からは、遠隔授業の導入など教育DXの進展に伴いIT基盤センターとの連携強化も進めている。特に、令和2年度はオンラインのFD/SDには力を入れ、20回以上の全学FD/SDを開催した。

4階層質保証システムについては、「茨城大学における教育の内部質保証の実施に関する要項」および「教育の内部質保証マニュアル」としてとりまとめ、教育改革推進委員会において承認いただき運用を始めている。

令和3年度には機関別認証評価を受審するため、学内各所と協力の上、準備作業を進めている。

### 1. 中期目標・中期計画および年度計画に関連する活動

#### 中期計画8【教務情報に基づく質保証（エンロールメント・マネジメント（EM））】

学士課程から博士後期課程を通して、全学生の学修成果を把握し、学修成果に基づいた効果的な教育改善を行い、教育の質保証につなげる。

そのため、PDCAサイクルを機能させ、確立していくのに必要なデータを確保するため、全学を通じて、学生の授業理解度、満足度に対するアンケート調査の全学的実施体制を確立するとともに、卒業生の進路状況調査、卒業生の能力等評価に対する企業等へのアンケート調査などを定期的実施する。また、IRの体制及び機能を強化して各教員に対する確に教学情報を提供するとともに、後述の全学教育機構などでの分析・評価、改善のための検討につなげていく。さらに、全学教育機構に学生支援部門を設置することにより連携支援体制を強化し、学生への指導に生かす。

#### 令和2年度計画：

入口から出口までの体系化された学生調査情報についてiEMDB、FD/SD支援システムを活用して学内共有を図るとともに、人材養成Annual Report（学修成果ファクトブック）の紙媒体版も発行して、教育改善情報の流通を強化する。

#### 令和2年度実績

前期、後期の授業終了時に学生を対象とした学修におけるアンケート調査を実施し、その結果について全学教育機構総合教育企画部門会議、教育改革推進委員会などの全学委員会にて共有を図り、各部署における教育の改善の検討に生かした。

茨大生の主な就職先企業を対象に、卒業生においてディプロマポリシーに掲げる資質が身についているかなどを中心にアンケート調査を実施し、結果を全学委員会等で共有し、教育改善の効果の有無、更なる改善の必要性等について検討できた。

iEMDB及び人材養成Annual Reportの運用化に向けて作業は進められ、これらは次年度にも継続される。

前期、後期の授業終了時に実施される学生を対象とした学修におけるアンケート調査結果から、学修時間の

<p>向上、授業における満足度向上など、授業改善の成果が推察可能となった。</p>
<p><b>中期計画9【体系的で柔軟な教育システム】</b></p> <p>国際化等に対応する柔軟なカリキュラム編成を可能にするとともに、体系的なカリキュラムの編成により、学生がより学修計画を立てやすくする。</p> <p>そのため、平成29年度からクォーター制を導入するとともに、平成27年度から導入している科目ナンバリング制度について恒常的な改善を行い、より学生にとってわかりやすいものとする。</p> <p>また、学生のモチベーション向上にむけた指導の工夫、Concept Mapなどを活用した授業内容・カリキュラムの可視化、電子シラバスの活用を含む既存の教務関係システムの統合等による新たな学修マネジメントシステムの整備及び利用率の向上、ルーブリックなどを用いた評価基準の明確化等に取り組む。</p> <p><u>令和2年度計画：</u></p> <p>全学部において学位プログラム制度の導入に向けた検討など、我が国の高等教育に求められる社会的要請を踏まえ、教育体制、内容の改善に関する検討を進める。特に、科目ナンバリング、アクティブラーニングに関する見直しを進める。</p>
<p><b>令和2年度実績</b></p> <p>科目ナンバリングの改善をはじめアクティブラーニング科目の明確化など、カリキュラムの体系が学生に理解されやすいようシラバスの改善検討等を行いシラバスガイドの修正版を作成し、教育改革推進委員会において修正内容の周知と次年度シラバス入力 of 徹底及び各局部におけるシラバス入力におけるチェックシステムの強化を図った。</p> <p>シラバスの役割（教育の質の保証、学生との教育に関する理解と合意など）、重要性に関する全学のFDを開催し、次年度シラバスのブラッシュアップを図った（第1回 茨城大学 FDdays：【資料2-A-02】）。</p> <p>リモート授業におけるアクティブラーニングの導入等を促進し教育の質の維持向上を図る一環として、次年度のmanabaの活用に関するFDを実施した（⇒第3回 茨城大学 FDdays：【資料2-A-02】）。</p> <p>学生により理解がしやすく教育の質の保証を確かなものにするシラバスガイドのブラッシュアップ（修正版）ができた。</p> <p>次年度受審する認証評価の根拠資料として十分耐えうる令和3年度シラバスの内容のチェックと修正が各学部研究科も含めてできた。【資料2-A-03】</p>
<p><b>中期計画20【教員の教育力向上（FD）】</b></p> <p>エンrollment・マネジメント活動等により教育上の課題を明らかにし、これに基づいて、教員の教育力の向上に取り組む。</p> <p>そのため、教務情報に基づく分析を踏まえ、個々の教員に対して教育上の課題を助言できるような仕組みを構築する。また、これに基づくFDプログラムを検討・開発し、広く受講させる。</p> <p><u>令和2年度計画：</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4階層の質保証システムの各階層に対応したFDの内容と実施体制を点検評価し、その改善策とともにibaraki enrollment management data base (iEMDB)を活用したFDを実施して、ディプロマポリシーの達成とカリキュラムポリシーに基づいた教育をさらに推進する。</li> <li>・iEMDBをもとに学修成果アニュアルレポートの定期的公表を行い、学内のエンrollment・マネジメントに資する情報を提供する。また、全学統一FD実施日（FDディ）の試行を行う。</li> </ul>
<p><b>令和2年度実績</b></p>

教育の質保証に関連する全学FD(前期：新任教職員を主とするFD(計3回)【資料2-A-01】，後期は全学教職員を対象としたFD(計3回)【資料2-A-02】)が実施できた。教育の質保証に関する全学FDの試みは初めての取組だったが、今後の年間を通じた計画的なFDの実施に向けて参考となった。

各部局単位で、教育における学生アンケート結果をもとにしたFDを実施し、教育の質の向上について意識を高めることができた。

iEMDBをもとに学修成果アニュアルレポートの定期的公表を行うことで学内のエンロールメント・マネジメントに資する情報を提供していくことに関しては、今年度もiEMDBへの学生の情報入力は着実に進められた。しかし、教職員に情報提供できる段階には至っておらず、次年度に作業を引き継ぎiEMDBの完成を目指すこととする。

## 2. 令和2年度における各部局でのFD実施状況（とりまとめ）

・学務企画課（教学システム・IR室）とともにとりまとめを行った。

☆：総合教育企画部門においてデータ提供だけでなく話題提供なども行ったもの

取組	主催	実施内容・方法	参加者数
人文社会科学部各メジャーにおけるFD(前期：令和2年6月10日～7月1日，後期：令和3年1月23日～2月8日)	メディア文化，国際地域共創，法学，経済学・経営学，文芸・思想，歴史・考古学，心理・人間科学の各メジャー	各メジャー単位で，指定された課題について議論，改善案を立案した。	令和2年 前期：82名， 後期：82名
人文社会科学部各学科におけるFD(前期：令和2年7月8日，後期：令和3年2月10日)	現代社会学科，法律経済学科，人間文化学科	学科単位で，各メジャーの報告をもとに総括議論を行った。	令和2年 前期：79名， 後期：79名
人文社会科学部におけるFD☆（令和3年3月17日）	人文社会科学部教務委員会	学科FD・メジャーFDの成果と卒業予定者アンケートの結果を学部全体で共有し，議論を行った。	77名
人文社会科学部研究科各コースにおけるFD ※原則，学士課程と同日程で開催	文芸・思想コース，歴史・考古学コース，心理・人間科学コース，メディア・情報社会コース，国際・地域共創コース，法学・行政学コース，経済学・経営学コース	各(新)コース単位で，指定された課題について議論，改善策を立案した。	82名
人文社会科学各専攻にお	人文科学専攻，社会	(新)専攻単位で，各コースの報告をもとに	79名

けるFD ※原則、学士課程と同日程で開催	科学専攻	総括議論を行った。	
教育実践高度化専攻内FD（実施日：令和2年5月21日）	教育学研究科教育実践高度化専攻	Teamsの使い方について説明会を開催し共有した。また連携授業があるため、とくにTeamsにおける外部ゲストの招待の仕方について共通理解を図った。	25名
教育実践高度化専攻内FD（実施日：令和3年3月18日）	教育学研究科教育実践高度化専攻	教職員支援機構の研修会についての報告（とくに振り返りの在り方）。教職員支援機構の研修会の内容について、とくに個人リフレクト及び相互リフレクトの重要性について共通理解をした。	17名
第1回教職大学院FD（実施日：令和2年12月2日）	教育学研究科専門委員会、教職大学院準備委員会	令和3年度教職大学院の拡充に伴い、カリキュラム全般、実習科目、実践研究報告書と実践研究報告会等について周知、検討を行った。	97名 （対面15（内事務3）、オンライン82）
第2回教職大学院FD（実施日：令和3年2月17日）	教育学研究科専門委員会、教職大学院準備委員会	令和3年度教職大学院の拡充に伴い、教育委員会や研修センター等、学外教育機関との連携が重要となるため、年間スケジュール、実習内容、外部との連携について周知、検討を行った。	85名 （対面4（内事務1）、オンライン81）
教育学部・教育学研究科授業アンケート結果を用いた授業点検FD（令和3年1月27日）	教務委員会、研究科専門委員会、点検評価委員会	教室、専修毎にミニFDを実施した。ミニFD実施後に各自点検レポートを提出した。後日、全体FDを行い、点検レポートに基づきいくつかの教室から点検結果が報告され、それに関する意見交換と情報共有がなされた。	93名
教職実践演習FD（実施日：令和2年10月21日）	教育学部教務委員会	令和2年11月から開講される教職必修科目「教職実践演習」の関係教員を対象にオンライン方式（Microsoft Teams）により実施。教務委員長および各回の演習担当教員が講師として授業の日程、オンラインでの講義・演習の進め方、課題・レポートの取扱いや成績評価方法などを講習した。授業等により参加できない対象者は、Teamsの録画により別途受講。	34名
大学入門ゼミ・大学院共通科目及び	教育学部教務委員会、全学教育機構	教育学部教員を対象に、対面及びオンライン方式（Microsoft Teams）により実施。	50名

<p>遠隔授業に関するFD （実施日：令和3年1月27日）</p>		<p>「大学入門ゼミ」，「大学院共通科目」及び遠隔授業全般に関する学生アンケート結果に基づき，全学教育機構教員が講師として各授業の現状と今後の改善点などを講習した。 授業等により参加できない教員は，Teamsの録画により別途受講。</p>	
<p>教職課程の質保証のためのガイドライン及び教職課程学生のICT活用指導力育成に関するFD（実施日：令和3年3月4日）</p>	<p>教育学部教務委員会，全学教職センター</p>	<p>教育学部教員を対象に，オンライン方式（Microsoft Teams）により実施。 教職課程の自己点検評価の義務化に伴う今後の見通し及びGIGAスクール構想に基づいた茨城県内の教育現場におけるICT活用状況等について，全学教職センター教員及び本学特命教員が講師として講習した。 授業等により参加できない教員は，Teamsの録画により別途受講。</p>	<p>85名</p>
<p>第1回研究カフェ兼FD （実施日：令和2年6月17日）</p>	<p>教育学部教育・研究支援委員会，教務委員会，大学院専門委員会</p>	<p>「遠隔授業におけるグループワーク，特に，チャンネルを使ったグループディスカッションの試み」と題し，実践豊富な教員からTeamsやFormsを利用した授業展開についての話題提供をする。さらに，これらについて意見交換する。</p>	<p>38名</p>
<p>第2回研究カフェ兼FD （実施日：令和2年7月17日）</p>	<p>教育学部教育・研究支援委員会</p>	<p>教科連携を推進するための一施策として，理科のなかでも地球科学の分野におけるもの見方・考え方について学ぶ。特に，地球科学的な時間・空間・循環の捉え方について学習し，それを教育心理学的な視点で捉え直してみる。</p>	<p>20名</p>
<p>第3回研究カフェ兼FD （実施日：令和2年9月16日）</p>	<p>教育学部教育・研究支援委員会</p>	<p>教科連携推進の一環として，国語のなかでも書字学習の分野におけるもの見方・考え方について学ぶ。特に，寺子屋の時代から連続と続く茨城の書字学習について学習し，その教育効果の変遷を脳科学的な知見も踏まえ，捉え直してみる。</p>	<p>25名</p>
<p>第4回研究カフェ兼FD （実施日：令和2年10月20日）</p>	<p>教育学部研究・教育支援委員会</p>	<p>教科連携推進の一環として，数学，とくに解析学における身近な現象説明，微分積分により導入される現象の観測（モデリング）と観測の復元という2つのプロセスを学ぶ。また，プレゼンテーションにGoodNote5というア</p>	<p>17名</p>

		<p>アプリケーションを使用し、オンラインでの「手書きで板書」の授業実践について説明する。</p> <p>さらに、これについて意見交換する。</p>	
<p>第5回研究カフェ兼FD （実施日：令和2年11月27日）</p>	<p>教育学部研究・教育支援委員会</p>	<p>「研究と教育現場の往還」と題し、美術教育専門とする教員が小学校教員時の教育方法、研究成果の活用、同時に教育現場で出会う様々な事象がどのように研究に生かされたかについて話題提供を行う。それについて、中学校での教職経験を有する教員からの助言も踏まえ、参加者で考える。</p>	<p>21名</p>
<p>第6回研究カフェ兼FD （実施日：令和3年3月17日）</p>	<p>教育学部研究・教育支援委員会</p>	<p>教科連携推進の一環として、社会、そのなかでも人文地理の分野におけるものの見方・考え方について学ぶ。特に、地理的な空間理解の時代変化を、茨城の先駆的な地理学者長久保赤水が残した業績を追いながら確認し、自身の専門分野との関連性について考える。</p>	<p>29名</p>
<p>理学部教育改善FD（令和2年11月18日， 令和3年1月27日）☆</p>	<p>理学部教学点検委員会 理工学研究科大学院学務委員会</p>	<p>1回目は、主に遠隔授業での学生の学修状況および生活状況についてデータをもと議論（現状把握、共通理解のための討論）を行い、2回目は10年分の成績データ解析結果から、改善活動の学生のまなびへの影響について議論を行った。</p>	<p>第1回 61名 第2回 67名</p>
<p>理学部コースFD（令和2年12月から令和3年1月）</p>	<p>理学部全コース</p>	<p>成績分布、授業アンケート結果をもとにカリキュラムの点検を行った。</p>	<p>コース教員全員</p>
<p>理工学研究科博士前期課程、研究科共通科目FD （実施日：令和3年3月25日）</p>	<p>理工学研究科博士前期課程学務委員会</p>	<p>学生および授業担当教員からのアンケート等を元に、授業の優れた点、改善するべき点について共有し、授業の質向上につなげる。特に遠隔授業についての学生・教員からの反応を確認し、より良い遠隔授業の実施方法について考える。</p>	<p>9名</p>
<p>工学部FD研究会（令和2年12月16日）☆</p>	<p>工学部教育改善委員会</p>	<p>本学全学教育機構教員による機関別認証評価で求められる内部質保証システムと工学部の教育改善の取組についての講演・研修、SPODフォーラム参加報告</p>	<p>159名</p>
<p>工学部 推奨授業公開</p>	<p>工学部教育改善委員会</p>	<p>年2回（前期・後期）推奨授業に選出された授業の公開を行い、実践的な手法の共有の場を提供した。</p>	<p>前期 10名 後期 3名</p>

工学部機械工学科 FD ※原則，新課程の学科に 合わせ実施	工学部機械工学科	年2回（前期・後期）当該学科カリキュラム 構成員に対し，授業担当教員からシラバスに 基づく授業内容の説明，学生からの授業アン ケート集計結果・意見を勘案し，優れている 面，改善すべき点について評価を実施。	42名
工学部機械システム工学 科 FD（令和2年10月 14日～27日に全体会と8 分野別点検会議）	工学部機械システム 工学科	同上	101名
工学部知能システム工学 科 FD ※原則，新課程 の学科に合わせ実施	工学部知能システム 工学科	同上	21名
工学部電気電子工学科 FD（令和2年11月16 日）	工学部電気電子工学 科	同上	18名
工学部電気電子システム 工学科 FD（令和2年10 月14日）	工学部電気電子シス テム工学科	同上	34名
工学部メディア通信工学 科 FD（令和2年10月 14日）	工学部メディア通信 工学科	同上	13名
工学部物質科学・生体分 子機能工学科 FD（令和 2年10月28日）	工学部物質科学工学 科，生体分子機能工 学科	同上	前期 16名 後期 31名
工学部情報工学科 FD （令和2年9月14日， 令和3年3月30日）	工学部情報工学科	同上	前期 22名 後期 21名
工学部都市システム工学 科 FD（令和2年9月 18日）	工学部都市システム 工学科	同上	前期 20名 後期 18名
大学院理工学研究科 機 械システム工学専攻 FD （令和2年10月16日～ 27日に全体会と5分野別 点検会議）	大学院理工学研究科 機械システム工学専 攻	同上	86名
大学院理工学研究科 知 能システム工学専攻 FD ※原則，新課程の専攻に	大学院理工学研究科 知能システム工学専 攻	同上	21名

合わせ実施			
大学院理工学研究科 電気電子システム工学専攻 FD（令和2年10月28日）	大学院理工学研究科 電気電子システム工学専攻	同上	27名
大学院理工学研究科 量子線科学専攻 FD（令和2年10月28日）	大学院理工学研究科 量子線科学専攻（工学野）	同上	25名
大学院理工学研究科 情報工学専攻 FD（令和2年9月14日，令和3年3月30日）	大学院理工学研究科 情報工学専攻	同上	前期22名 後期21名
大学院理工学研究科 都市システム工学専攻 FD（令和2年9月18日）	大学院理工学研究科 都市システム工学専攻	同上	前期19名 後期17名
工学部アドバイザーボード	工学部	学部の教育活動及び教育改善等に関する事項について，学外の産学官民のステークホルダーから助言を得る。	28名
工学部機械システム工学科，大学院理工学研究科 機械システム工学専攻 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部機械システム工学科 大学院理工学研究科 機械システム工学専攻	学科・専攻の教育活動及び教育改善等に関する事項について，学外の産学官民のステークホルダーから助言を得る。	15名
工学部電気電子システム工学科，大学院理工学研究科 電気電子システム工学専攻 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部電気電子システム工学科 大学院理工学研究科 電気電子システム工学専攻	同上	11名
工学部物質科学工学科 大学院理工学研究科 量子線科学専攻（工学野） 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部物質科学工学科 大学院理工学研究科 量子線科学専攻（工学野）	同上	25名
工学部情報工学科，大学院理工学研究科 情報工学専攻 産学連携カリキュラム改良委員会	工学部情報工学科 大学院理工学研究科 情報工学専攻	同上	25名

工学部都市システム工学科，大学院理工学研究科都市システム工学専攻産学連携カリキュラム改良委員会	工学部都市システム工学科 大学院理工学研究科都市システム工学専攻	同上	15名
農学部FD（令和2年10月21日）	農学部総戦略・IR委員会	令和2年度4月の学生アンケート結果をもとに新型コロナウイルス感染症下での学生の動向について確認を行い，今後の指導に向けた共通理解を得た。	50名
令和元年度・2年度卒業・修了生の就職状況に関するFD（令和2年12月16日開催）	農学部	令和元年度・2年度卒業・修了生の就職状況について情報共有を行った。（講演：福與徳文教授）	42名
農学分野データサイエンス教育事業FD第1回（令和3年2月17日開催）	農学部	大学共同利用法人・システム研究機構統計数理研究所名誉教授田村義保先生をお招きし，統計科学とデータサイエンスについて学部全体での認識共有を図った。	25名
農学部情報リテラシーFD（令和3年3月4日）	農学部	農学部FD：情報リテラシー 講師：田附明夫教授	52名
数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム令和2年度 関東・首都圏ブロック第8回ワークショップ～農学分野における数理・データサイエンス・AIの教育，研究の展開普及～（令和3年3月25日開催）	数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム，茨城大学農学部	講師：茨城大学農学部 教授 岡山毅，統計数理研究所 特任教授 田村義保，鯉渕学園農業栄養専門学校 教授 大熊哲仁，株式会社フォーカスシステムズ 櫻井伸吾，茨城大学農学部附属国際フィールド農学センター係長 高田圭太，茨城大学農学部教授・附属国際フィールド農学センター長 小松崎将一	106名 （Zoom 開催）
令和元年度後学期共通教育FD（令和2年11月19日）	全学教育機構共通教育部門会議	令和元年度後学期に開講された基盤教育科目，全学共通プログラム科目，大学院共通科目のFD実施報告	93名
令和2年度前学期共通教育FD（令和3年3月18日）	全学教育機構共通教育部門会議	令和2年度前学期に開講された基盤教育科目，全学共通プログラム科目，大学院共通科目のFD実施報告	93名
第1回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年4月17日）	IT基盤センター	Teams 操作説明・Teams に関するQ&A	195名

第2回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年4月22日）	IT 基盤センター	Teams 操作説明・Teams に関する Q&A	112 名
第3回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年4月24日）	IT 基盤センター	Teams 操作説明・Teams に関する Q&A	69 名
第4回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年5月14日）	IT 基盤センター	遠隔授業 TF からの報告，Teams に関する Q&A	126 名
第5回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年5月28日）	IT 基盤センター	Teams の機能紹介，Teams に関する Q&A	122 名
第6回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年6月11日）	IT 基盤センター	Teams 利用ガイドライン，研究活動での利用，Teams に関する Q&A	80 名
第7回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年6月25日）	IT 基盤センター	Teams の基本的な操作方法（2Q から遠隔授業を始められる方向け）	56 名
第8回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年7月10日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	第1Q 開講科目の受講学生に実施した授業アンケートの結果を紹介，Teams に関する Q&A	67 名
第9回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年7月22日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	教員向け調査結果から見てきた茨城大学の遠隔授業の現状と課題，Teams に関する Q&A	36 名
第10回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年8月6日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	遠隔授業と著作権	61 名
第11回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年9月23日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	遠隔授業の実施方法について（後期から遠隔授業を始められる方向け）	105 名
第12回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年10月15日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	Teams の機能の変更等について，遠隔授業に関する Q&A（Teams の活用，著作権等）	34 名
第13回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年10月29日）☆	IT 基盤センター・全学教育機構	授業実施における著作権法上の留意点，Q&A（遠隔授業全般について。特に技術的な内容）	32 名

第14回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年11月19日）☆	IT基盤センター・全学教育機構	学校現場におけるICT化の流れからハイフレックス授業まで、Q&Aコーナー	41名
第15回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年11月27日）☆	IT基盤センター・全学教育機構	manabaとTeams、教務情報ポータルの使い分け、Q&Aコーナー	99名
第17回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和3年1月28日）☆	IT基盤センター・全学教育機構	遠隔授業/遠隔会議をそつなく行うためのTips、LMS(manaba)の使い方	60名
第19回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和3年3月26日）☆	IT基盤センター・全学教育機構	VPNサービスの利用の手引	140名
第20回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和3年3月26日）☆	IT基盤センター・全学教育機構	LMS(manaba)の活用方法	76名
第1回FDディ（令和2年12月9日）☆	全学教育機構	令和3年度のシラバス作成に向けて、基本的な事項（学則、大学設置基準）と内部質保証として求められる事項（DPとの関連等）の解説を行った。	177名
第2回FDディ・第16回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和2年12月24日）☆	全学教育機構・IT基盤センター	教育のDX化も見据えた授業改善を考えるべく学内での実践事例の共有を図った。	115名
第3回FDディ・第18回遠隔授業/テレワークに関するFD（令和3年3月18日）☆	全学教育機構・IT基盤センター	来年度の授業実施に向け授業支援システムであるmanabaの活用法について説明、全体討論を行った。	265名
新任教職員オリエンテーション（令和2年4月2日）	人事労務課	新規採用教職員に茨城大学の成り立ち・ビジョン・改革、就業規則・教員業績評価、教育システム、学生支援、研究、組織概要およびリスク管理、個人情報保護と情報セキュリティについて解説し、今後の自己のミッションについて整理した。	30名（教員のみ）
第1回新任教員FD（令和2年7月21日）	全学教育機構・人事労務課	新任教員を主な対象として、指導者及び研究者としての基本姿勢を備えるとともに、学内のシステムに対する理解を深めることを目的としたテーマを取り上げて、説明を行った。 第1回テーマ：「学生と関わる ー支援、配	30名

		慮，コンプライアンスー」	
第2回 新任教職員 FD/SD(茨城大学オンラインFD/SD) (令和2年8月4日) ☆	全学教育機構	新任教員を主な対象として，指導者及び研究者としての基本姿勢を備えるとともに，学内のシステムに対する理解を深めることを目的としたテーマを取り上げて，説明を行った。 第2回テーマ：「茨城大学の教育システムーシラバス，学則，質保証ー」	29名
第3回 新任教職員 FD/SD(茨城大学オンラインFD/SD) (令和2年10月28日) ☆	全学教育機構	新任教員を主な対象として，指導者及び研究者としての基本姿勢を備えるとともに，学内のシステムに対する理解を深めることを目的としたテーマを取り上げて，説明を行った。 第3回テーマ：「データから見る茨大生」	34名

3. FD 以外で各学部等からの要請により情報提供を行ったもの

※教育研究評議会，経営協議会，教育改革推進委員会などでの報告は除く

実施日	催し物名	演題
R2. 11. 13	茨城大学 大学教育シンポジウム オンライン授業の経験と知見を教育改革に活かすために	茨城大学の遠隔授業の知見から教育改革を展望する
R2. 11. 25	同窓会連合会意見交換会	全国の同窓会による在学生支援の現状と課題
R3. 1. 12	理学部アドバイザーボード	茨城大学の新型コロナウイルス感染症対応と理学部学生の状況について
R3. 3. 15	人文社会科学部アドバイザーボード	環境の変化にともなう学生の履修状況についてー遠隔授業および改組の状況をデータから振り返るー
R3. 3. 21	農学部アドバイザーボード	遠隔授業の状況および農学部卒業生の学修成果について
R3. 3. 24	茨城大学パートナーズフォーラム	オンライン授業による学修成果への影響と教育の質保証
R3. 3. 25	教育学部アドバイザーボード	教育学部の主要指標および卒業時・修了時の成果について

4. 他大学等からの要請により本学の教育改善の仕組み等の紹介を行ったもの

実施日	催し物名	演題
R2. 7. 9	鳥取大学 エンrollment・マネジメントに係る講演会	なぜエンrollment・マネジメントを行うのか？
R2. 8. 7	亜細亜大学 令和2年度第2回全学	なぜ教育改善が必要なのか，学修成果を測

	FD・SD 研修会	定するのか？
R2. 9. 4	第 22 回 山形大学 基盤教育ワークショップ	茨城大学の遠隔授業から見えてきた授業の質を高めるいくつかの方法
R2. 10. 1	埼玉大学 FD/SD 研修会	計画を立てる，測る－ロジックモデルと指標による計画立案と進行管理－
R2. 11. 6	会津大学短期大学部 FD 研修会	遠隔授業をきっかけにした授業改善・教育改善
R2. 11. 27	教育の質保証・質向上オンラインセミナー ～After コロナを見据えて今大学ができること～(株式会社朝日ネット)	教育の内部質保証・質向上のために IR ができること
R2. 12. 10	埼玉大学 FD/SD 研修会	教育の内部質保証のために実際にやるべきこと
R2. 12. 18	I R e r 養成講座(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室, 名古屋大学高等教育研究センター)	実務担当者の分析事例(演習)
R3. 1. 12	大学改革支援・学位授与機構 研究開発部研究会(第 10 回)	大学評価で何が変わったのか－内部質保証の理想と現実とは－

5. 自主的に行った本学の教育改善の取組に関する報告

実施日	催し物名	演題
R3. 3. 5	継続的改善のための IR/IE セミナー E2: ロジックモデル&指標策定演習 [国立大学計画立案担当者編](大学評価コンソーシアム)	指標の立て方・使い方－事例・考え方・演習・妥当性－
R3. 3. 22	継続的改善のための IR/IE セミナー 2021 R1: IR 実務担当者セッション(大学評価コンソーシアム)	新型コロナウイルス感染症の影響把握のための IR 活動を振り返って